

テーマ;「在宅医療」知っていますか?家で最後まで療養したい人に。

実施報告書

日時 平成28年9月17日(土) 18:00~20:30

場所 北杜市須玉ふれあい館会議室

主催 スクラム八ヶ岳実行委員会

代表 有馬 里美

助成対象年度;平成28年度前期

市民の集い開催への助成

提出日;平成28年10月27日

1) はじめに ～在宅療養への課題～

介護の現場で働くケアマネジャー・訪問看護師・介護福祉士・社会福祉士・保健師等が、住み慣れたこの地域で「自分らしく最期まで暮らし続けたい」という思いを支えるために、市を中心に微力ながらそれぞれが在宅療養(ケア)の普及と、在宅での看取りを啓発してきた。

在宅医療においては、訪問診療を行う医師の確保と負担軽減、在宅を支える病診連携、訪問看護ステーションと訪問看護師の確保、医療と介護の連携強化と家族機能の変化と介護力の低下等様々な課題があげられる。その課題のどれを取ってみても解決できているものはなく、何年もその課題に向き合い、取り組みながら、市民が安心して在宅療養を続けていくことができる環境(仕組みやサービス等)には至っていない現実がある。

本市の人口は48,000人、若者は減少し出生数と死亡数は1:3と多死社会そのものである。高齢化率は36%、複数の集落が散在する山間へき地で、この地域独自の地域包括ケアの構築をめざしているところである。

そこで、市民一人一人の意識に働きかける必要性と、在宅療養の先にある「在宅での看取り」をより具体的受け止めてもらうことで在宅での生活の継続を可能にできるのではないかと考えた。

2) 内容

「看取り」の経験がない人や家族にとって、「自宅で安らかな最期を迎えるとはどういうことか」「家族はその時何をしたらよいのか」「どう向き合ったらいいのか」、特に「医療の関係はどうしたらよいのか」未知のことばかりである。市民に「看取り～人の最期～」を知ってもらうこと、その方法としてドキュメンタリー映画「生死(いきたひ)」の鑑賞と、映画を製作した長谷川ひろ子監督の講話を企画した。

後援は、社会福祉法人緑樹会きよさとの家と(有)ケアステーション地球人。

周知は、実行委員会メンバーが多くの市民に参加してもらえるように、市民がより多く利用する郵便局や銀行、スーパー、役所関係や医療機関に出向き、チラシの配布とポスターの掲示をお願いした。

また、今回は、会場の都合や、在宅医療への関心の現状から100人の参加を予定した。

3) 結果

参加者は、予定していた人数を超えて108名であった。

申し込み方式をとらせていただいたので、おおよその参加者は事前把握できていたが、予想以上の参加者に慌てて椅子をセットする状況であった。

ポスター掲示やチラシの配布を依頼した機関には「在宅医療や見取りについて」少しばかりの説明をさせていただき理解を仰いだ。その結果、すべて快諾していただき、周知には一定の結果が出せたと感じている。

映画の鑑賞と講話を終えて、最期を迎える人を理解し、また「死」に対して、大切な人を看取った方の映画の中で語りことばの一つ一つに心を揺り動かされたと感じている。

涙をぬぐいながら視聴していた参加者も多く見られた。

また、自身の経験に重ね合わせて視聴していた参加者もいた。

4) 感想

在宅での看取りが、市民にとってまだ十分理解されていない現状を目の当たりにしながら、今回の企画は、民間主導で行った催しであったことは、同じ市民目線に立って伝えられたと感じている。

我々のような地域で療養者や高齢者に接している、まさに現場で奔走している者にとっても、この映画や講話から自分自身の認識をも新たにさせられた。

「死は苦だ」と思われてきたことを、唯一無二の臨終のときに、その人が人生で蓄えてきたことを残される者にバトンタッチされる瞬間なのだ。

「看取り」が「当たり前のこと」としてその時を受け止められるように、そのことが「とても尊いこと」として受け止められるよう、自分たちが出会うすべての方の「心」に訴えていきたい。

「在宅療養」というと医療や看護、介護が前面に出てきてしまうが、その人がその人らしく生きていくことは「療養」ではなく「生活そのもの」だと感じた。

在宅医療は、その人の暮らし、つまり普通の生活を支えることではないかと痛感した。

5) 終わりに

この企画は、志を持つ有志が、ただ観たいという思いだけで旗揚げした。今回、勇美記念財団の助成をいただいたことで、より大きくステップアップできたと思う。

お力添えをいただいた公益社団法人 勇美記念財団には、深く感謝申し上げます。

これを機に、在宅療養を多くの人に知っていただき、在宅療養をする人を増やし、在宅での看取りができる体制づくりを、これからも推進していこうとお誓いしたいと思います。

公益社団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による

開催内容

長谷川ひろ子 監督作品

[ドキュメンタリー映画]

医療・介護 関係者間での連携を深め、地域住民と共に
終末期ケア のあり方や在宅での看取りについて考える。

〜家族で看取る〜

「死は苦だと思われてきた歴史をかえたい」

臨終の時、人生のクライマックス

人がそれまでの人生で蓄えてきた

生命のエネルギーがパトントタッチされる瞬間。

医療・介護を通して生と死は何かを問う。



「在宅医療」知っていますか？
家で最期まで療養したい人に。

平成28年9月17日(土)

18:00~20:30 (開場17:30~)

会場:北杜市須玉ふれあい館会議室

参加費:無料 当日受付 定員100名

お申込み:スクラム八ヶ岳事務局 FAX:(0551)48-8031

代表者名	参加人数 名
連絡先	
メールアドレス	

*問い合わせ先 古本 090-2737-0879 有馬 090-1211-8731

主催:スクラム八ヶ岳実行委員会

後援:社会福祉法人緑樹会きよさとの家 (有)ケアステーション地球人

助成:公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団